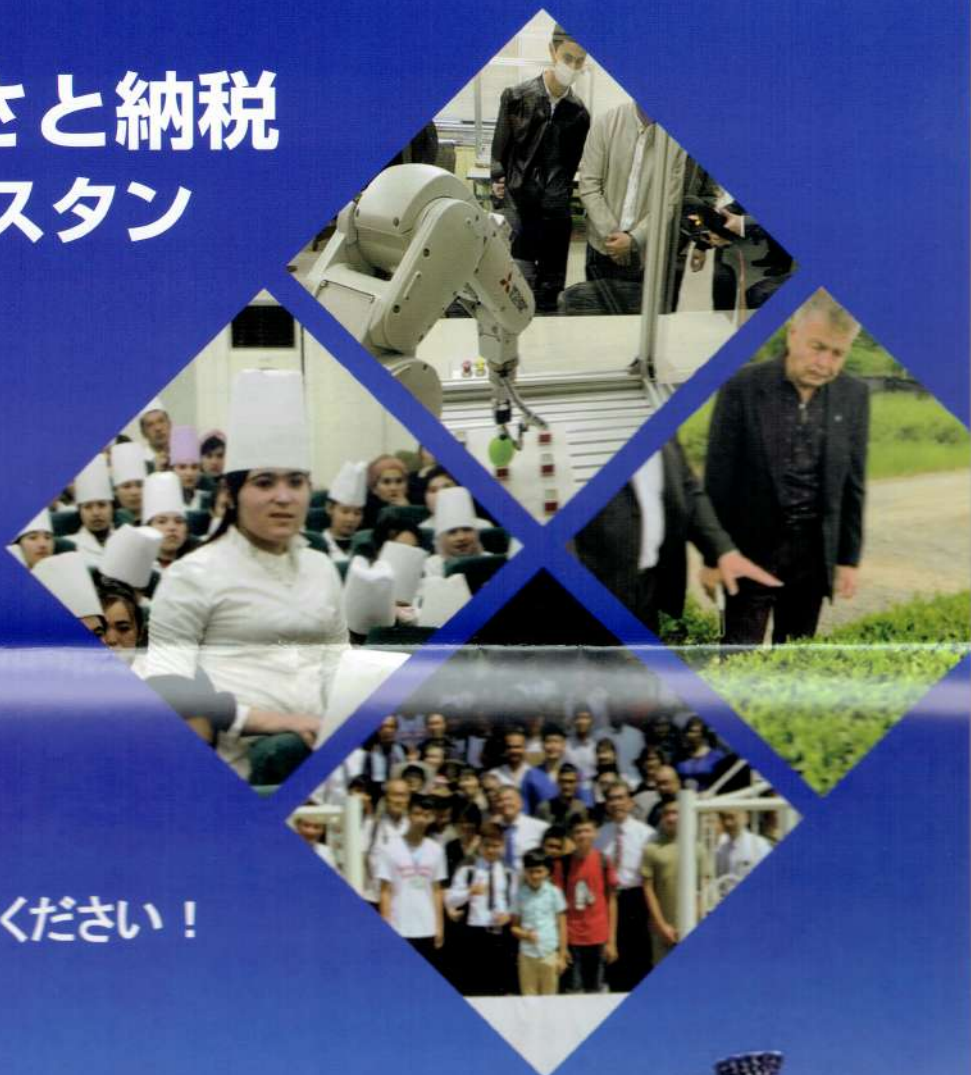


舞鶴市ふるさと納税 for ウズベキスタン



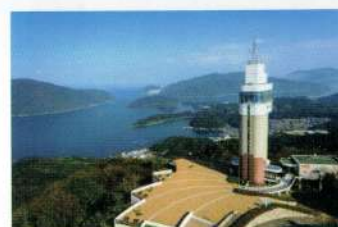
「人材育成協力」の
取り組みを応援してください！



舞鶴市では、ふるさと納税による寄付金を活用したウズベキスタン人材育成協力事業を推進しています。取り組みの具体例は、中面をご覧ください。

お問い合わせはこちらまで
舞鶴市役所 国際交流課

Tel: 0773-66-1037
E-mail: minato@city.maizuru.lg.jp



舞鶴市ふるさと納税 ～ウズベキスタン人材育成協力～

ウズベキスタンとのつながりは？

第二次世界大戦後、ウズベキスタンには約2万5千人の日本人抑留者が送られ、水力発電所や学校などの建設に携わりました。その中で、ナヴォイ劇場の建設に携わった日本人抑留者のほとんどが、舞鶴港に引き揚げられています。このように、戦後の海外引揚がつかない深い縁によって、舞鶴市とウズベキスタンの交流が始まりました。その後、2020東京五輪のホストタウン登録をきっかけとして、スポーツや文化など様々な分野の交流に発展しました。2019年には、フェルガナ州リシタン地方政府と人材育成に関する覚書を交換。ウズベキスタンの発展に寄与する「産業技術」「介護福祉」「農業」分野の人材育成に協力しています。

産業技術・介護福祉人材育成協力

フェルガナ州リシタン地方は、農業や陶器産業以外に地域産業が乏しいため、就職先が少なく若い人材が埋もれています。そのような状況を改善するため、舞鶴市内の高等教育機関や介護福祉施設と連携し、電子、情報、生産などの専門技術を学び、将来、本国の産業発展に貢献できる「産業技術人材」、日本の介護現場で活躍できる「介護福祉人材」の育成を支援しています。

茶栽培人材育成協力

ウズベキスタンでは緑茶が常飲されていますが、茶葉は国内で生産されていないため、海外からの輸入に頼っています。舞鶴市は、両国の大学や研究機関と協力し、ウズベキスタン国内での茶生産の実現を目指しています。現在、茶の苗木を現地に送り、試験栽培を実施しています。生育データの収集・分析を進め、現地の環境に合った栽培方法を確立し、本格的な栽培に発展させる予定です。



▲日本人抑留者が建設に携わったナヴォイ劇場



▲苗木を植えるウズベキスタン人

舞鶴市とウズベキスタンの交流の歩み

1月
スルタノフ・ジャリル日本人抑留者資料館長が初来訪



6月
東京五輪ホストタウン決定

10月
市内全小学校の給食でウズベキスタン料理を提供



5月
レスリング・柔道事前合宿が内定

8月
ウズベキスタン人の国際交流員が着任

ウズベキスタンの合宿視察団が来訪



10月
ウズベキスタン展を開催

11月
舞鶴市公式訪問団がウズベキスタンを初訪問

2月
ウズベキスタンへ柔道着を寄付

4月
ホストタウン推進本部が発足

8月
ウズベキスタン国家オリンピック委員会及びレスリング・柔道のジュニアチームが来訪、合宿を実施



1月・5月
ナジロフ・ガニシエルNoriko学級校長が来訪

8月
舞鶴市代表团及び市民訪問団(計35名)がウズベキスタンを訪問

ウズベキスタンレスリング・柔道選手団が合宿を実施

11月
フェルガナ州リシタン地方と人材育成交流に関する覚書交換

ウズベキスタン文化芸術訪問団の来日公演を開催



2月
舞鶴市訪問団による茶栽培の現地調査及び産業技術・介護福祉人材育成に向けた現地説明実施



11月
リシタン地方青年訪問団が来訪、近畿職業能力開発大学校京都校を受験



4月
ウズベキスタンで茶の試験栽培を開始

7月
ウズベキスタン柔道代表選手団が東京五輪事前合宿を実施



ウズベキスタン人材育成支援制度 ～舞鶴市で学びたい人、働きたい人を応援します！～

リシタン地方から、産業技術の習得を目的に舞鶴市内の職業能力開発大学校へ留学する人、市内介護施設で就労する人に対して、渡航費や生活費の一部などを支給する「ウズベキスタン人材育成支援制度」を創設。リシタンの若者を応援します。

近畿職業能力開発大学校京都校への留学支援

【対象者】

リシタン地方政府との覚書に基づく近畿職業能力開発大学校京都校入校者

【支援内容】

- ①来日渡航費及び入学支度金150,000円の支給
- ②生活費15,000円/月の支給

介護施設就労者への就労支援

【対象者】

リシタン地方政府との覚書に基づく舞鶴市内介護施設での就労者

【支援内容】

- 来日渡航費及び就職支度金150,000円の支給



▲近畿職業能力開発大学校京都校を見学するNoriko学級生徒



▲介護施設を見学するNoriko学級のナジロフ・ガニシエル校長

寄付金の使い道

皆様からいただいた寄付金は、ウズベキスタン人材育成協力事業に活用させていただきます。現在、寄付金を原資として「ウズベキスタン人材育成支援制度」を運用していますが、寄付金の使い道は、今後さらに拡大する予定です。